児童朝会　校長の話　　8月３１日　9月1日

この写真を見てください。高知県の「あじさい園」という障害者施設です。２０代から８０代までの障害者４５人が生活をしています。

８月１５日にこの施設で生活している障害者や職員の人たち１２名がコロナウイルスに感染してしまいました。感染者が大勢出ると、残念なことですが、「予防をちゃんとやっていなかったんじゃないのか。」「感染者が近くで出ると迷惑だ。」…などと責めたり批判したり、関係者を傷つけることを言う人が出てきます。あじさい園では３日後の朝、職員が出勤してみると、門のところに「頑張れ、あじさい園」と書かれた黄色い幟旗が立てられていました。だれが立てたのでしょう。またその次の日、もう一本、立てているおじいさんがいました。「お名前は？」と聞くと「いいんです。」と言って去って行ったそうです。

近所に住むおじいさんが手作りで応援の幟旗を作ってくださったのです。苦しく辛い思いをしていたあじさい園の人たちは、励まされてとても嬉しかったそうです。

ここに、文部科学省の萩生田大臣から小学校の皆さんにメッセージが届いています。

児童生徒等や学生の皆さんへ

新型コロナウイルスが広がってから、皆さんは、学校はどうなるのだろう、この先どうなるだ

ろうと、不安だったのではないでしょうか。新しい学期を迎えるに当たって、皆さんに伝えたいことがあります。

まず、感染症にかからないようにするには、いくつかの方法があります。すでに皆さんが取り組んでいるように、話をするときにはマスクをしたり、手を洗ったり、具合が悪い場合には学校を休んだりしてもらうことです。そして何より、健康的な生活を送ることが大切です。それでも、これまでも皆さんは風邪をひいたり、インフルエンザになったりしました。今はさらに新型コロナウイルスが課題になっています。

この三つは、症状がよく似ています。ですから、今後、皆さんの誰もがこうした症状を経験することがあるでしょう。具合が悪い人の中には、新型コロナウイルスに感染したと診断される人も身近な人の中から出るかもしれません。もちろん、それが友達だと分かったら自分は大丈夫かなと不安になることもあるでしょう。

新型コロナウイルスには誰もが感染する可能性があります。感染した人が悪いということではありません。学校やクラスの中で感染することは悪いことだという雰囲気ができてしまうと、新型コロナウイルスに感染したと疑われることをおそれて、具合が悪くなっても、その後は言いだしにくくなったり、病院に行くのが遅くなったりしてしまいます。そうすると、さらに皆さんの地域で感染が広がってしまうかもしれません。

感染した人や症状のある人を責めるのではなく、思いやりの気持ちを持ち、感染した人たちが早く治るよう励まし、治って戻ってきたときには温かく迎えてほしいと思います。もし、自分が感染したり症状があったりしたら、友達にはどうしてほしいかということを考えて行動してほしいと思います。

すでに、感染した人達が心ない言葉をかけられたり、扱いをされたりしているという事例が起きています。こうしたことが皆さんの周りでも起きないように、皆さんにも協力してほしい

のです。また、高齢者や病気がちの人は、感染すると症状が重くなってしまう危険があります。自分は元気だから大丈夫ということではなく、そのような人たちに感染させることがないよう、思いやりの気持ちを持ってほしいと思います。

新型コロナウイルス感染症が広がり、皆さんの日々の生活は一変したと思います。以前のようには、友達と会いにくくなり、スポーツや文化に触れる機会も少なくなり、将来への不安やストレスを抱えている人も多いでしょう。

これまでも、私たち人間は、新型コロナウイルスのような新しい病気を経験してきました。そのたびに、世界中の研究者が病気の原因を探り、予防方法を見つけたり、薬の開発をしたりしてきました。そうして、私たちは、病気と共存していく。この歴史は繰り返されています。新型コロナウイルスも研究が進んで解明されれば、予防と治療ができるようになり、新たな共存生活が始まります。

私たち大人は、皆さんの応援団として、将来の見通しを持ち、未来の社会の担い手である皆さんが学ぶ機会、遊ぶ機会、交流する機会を最大限作っていきます。それまで、皆さんは今自分ができる予防をしっかり行い、将来の目標を持ち、家庭や学校で日々の学びを続けてほしいと願っています。

令和二年八月

文部科学大臣　萩生田光一

皆さんのまわりに、感染した人やその家族や関係者の人がいたときに、あじさい園でのできごとのように、辛い思いをしている人を励ましたり応援したりする人になって欲しいです。みんなで思いやりの心をもって、力を合わせて、コロナウイルス感染症を乗り越えていきたいと思います。